

自己評価報告書(最終報告)

報告者

社会系コース／青葉 暢子

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

リーマンショック、原発事故後の日本の経済状態は深刻である。このような経済状態にあつて、大学新卒者の就職状況は厳しく、若年者の非正規雇用はますます増大している。若年者の非正規雇用の増大は、現在の日本のGDPを減少させるだけでなく、年金制度や健康保険制度を破綻させる危険を大きくするため、非常に重要な問題である。そのため、このように若年者の非正規雇用を増大させる契機となった派遣法に焦点を当てて、法律採用に影響を及ぼす力関係から派遣法成立の過程を理論モデル化して、消費者や社会の厚生を改善するような派遣法の改正を提示する研究を行っている。今年度は派遣法成立の過程を理論モデル化する計画で、次年度以降、理論モデルの中の変数に影響を与える因子を導出する。

2. 点検・評価

昨年は非正規雇用に関する理論モデルを構築するための実証研究を行い、公共選択学会、日本リスク研究学会において研究発表を行った。

今年度は昨年の発表とフロアーからの質疑応答に基づき、論文を作成して投稿する予定であり、研究は順調である。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

今日、大学新卒者の就職状況は極めて厳しく、経済学部卒業者も就職先が決まらないまま卒業式を迎えた者も多い。このような現状を踏まえ、就職先が決まらない4年生に、新たに小学校教員の道を示し、鳴門教育大学の大学院への進学を勧めるように他大学の親しい経済学部教員に依頼している。また、経済学会等においても、鳴門教育大学の学部生の教員採用率全国1位の実績を話して、積極的に勧誘を行っている。

2. 点検・評価

12月に、九州の福岡大学に筑波大学大学院における先輩を訪ねて鳴門教育大学の長期履修制度について説明、就職課で鳴門教育大学の紹介してもらえるように依頼を行った。

併せて、久留米大学、九州産業大学、福岡国際大学にも訪問、大学院の説明を行い、就職が決まらない学生に鳴門教育大学大学院を紹介してもらえるように依頼した。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

今年度、経済ゼミは、経済ゼミは、学部3年生が3名、大学院長期履修生3年が1名、私費外国人留学生の修士2年が1名なので、大学院長期履修生については、教員採用試験等についての支援と、大学院生2名の修士論文指導を行う。学部3年生については、秋に実習に行く予定なので、指導案の作成、授業実践等の指導を行うとともに、卒業論文のための研究指導を行う。また、特別支援の学部4年生より個別に卒業論文のための統計分析の指導を依頼されている。

2. 点検・評価

長期履修学生3年と私費外国人留学生修士2年の2名の修士論文の指導を行い、無事修了させた。また、長期履修学生については、4月より神戸市において小学校教諭(臨時)として働いている。9月には学部3年の教育実習の指導も行った。

II-2. 研究

1. 目標・計画

I-1に書いたテーマについて、7月に公共選択学会において発表することが決まっている。学会においては他の研究者との意見交換を行い、学会発表した研究を学会誌に投稿する予定である。

2. 点検・評価

7月に公共選択学会、11月には日本リスク研究学会において研究発表を行い、論文の投稿の準備を行っている。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

今年度から2年間、大学院教務委員会委員として、大学院教務の業務に就く。

2. 点検・評価

大学院教務委員会委員として、大学院教務の業務に就いている。
また、授業評価専門部会委員も兼任、FD特別公開授業を担当して10月29日に授業を行った、
学部のおすすめ入試の試験問題を作成した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

昨年度につづき、大学院のフィールド研究において、徳島市立南井上小学校と連携で授業実践を行った。
地域社会への貢献としては、昨年度に引き続き、(1)徳島県土地利用審査会委員、(2)徳島県環境審査会委員、(3)徳島県環境影響評価審査会委員、(4)徳島県リサイクル認定制度検討審査会委員、(5)徳島市中小企業振興対策委員会委員、(6)鳴門市総合計画審議会委員を務め、経済学に関する専門知識を生かし、積極的に地域へ貢献していく。

2. 点検・評価

大学院のフィールド研究において、北島小学校と連携で授業実践を行った。
地域社会への貢献としては、昨年度に引き続き、
(1)徳島県土地利用審査会委員、
(2)徳島県環境審査会委員、
(3)徳島県リサイクル認定制度検討審査会委員、
(4)徳島市中小企業振興対策委員会委員、
(5)鳴門市総合計画審議会委員
を務め、経済学に関する専門知識を生かし、積極的に地域へ貢献していく。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

地域連携センターの依頼により、エコアクションの外部監査の説明を行った。